

人新世時代におけるツーリズム

地域共創学部
観光学科
准教授

片瀬 葉香



研究シーズの紹介

本研究の目的は、今や地球を改変する力「ジオフォース」となったツーリズムは、気候変動、地球温暖化といった喫緊の課題に対してどうあるべきか、人新世時代にふさわしいこれからのツーリズムとは何かを明らかにすることである。

人新世という時代に私たちはいかに生活し、地球システムをいかに維持していくべきか。その中において、ツーリズムはどうあるべきか。

(1) 人新世とはどのような時代か？産業革命以後の時代を3つのステージに分けて、その歴史の変遷を概観する。(2) 人新世とツーリズムとの関係とは？ツーリズムによる環境への影響、ツーリズムと気候変動との関係という観点から考察する。(3) 地球システムに負荷を与えないツーリズムのあり方とは？倫理的で公正な新しい社会の改革をどのように推進すればいいのか。



人新世と ツーリズム

- 2000年に、ノーベル化学賞受賞者P. J. Crutzen (クルッツェン) らは、今や完新世は終わり「人新世 (Anthropocene)」ー人類の時代ーであると主張した。
- Gren & Huijbens (2014) は、人新世の視点から、ツーリズム研究に着手した。

【人新世】

古代ギリシャ・ローマ時代
十字軍遠征

第1ステージ: 産業の時代 (1800年頃～1945年)

1750 イギリス産業革命
1825 英鉄道の開始
1900 米フォード大衆車の生産開始
1945 第二次世界大戦の終結

第2ステージ: 大加速時代 (1945年～2015年頃)

1970 ジャンボジェット機の就航
1989 ベルリンの壁崩壊
気候温暖化による影響の顕在化
1997 京都議定書

第3ステージ: 地球システムの管理者の時代 (2015年頃以降?)

2015 パリ協定
2023 COP28開催

【ツーリズム】

転地療養、巡礼、グランドツアー

1841 トーマス・クックの団体旅行
1869 米大陸横断鉄道の開通
1936 仏有給休暇法の成立

1960 マスツーリズムの発達
ハワイ・地中海リゾート開発、スキーの大衆化
1972 世界遺産条約
1992 気候変動枠組条約
生物多様性条約

2019以降 COVID-19とツーリズム制限・緩和

期待される活用シーン

- 温室効果ガスの排出量を削減し、地球システムへの負荷を軽減するツーリズムを実践したい。

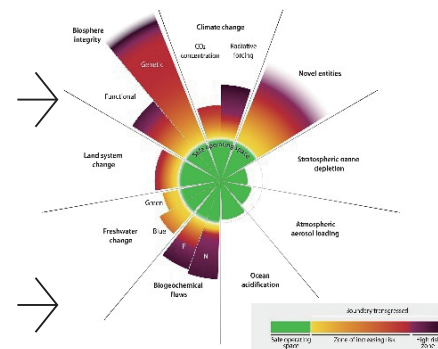


持続可能なツーリズム形態への移行を奨励するための「ソフト」対策に着目した目的地管理に関する事例分析・情報収集が可能です。

- 気候温暖化などの地球環境問題について知識を共有し、協力関係を構築したい。



「地球システムの管理者の時代」に相応しいツーリズム実践に向けたパラダイム構築が可能です。



Richardson et al. (2023), p.4.

その他の研究テーマ

- 南北格差・貧困問題に対処したツーリズムに関する研究
- 地球倫理にかなったツーリズムに関する研究